

# 県連ニュース

2008年12月1日発行  
栃木県勤労者山岳連盟

県連交流ハイキング報告・・・1  
第6期ハイキング楽校 第7回実技山行～南八ヶ岳～・・・6

## 県連交流ハイキング報告

事務局記

実施日： 2008年10月19日（日） AM 8:00～PM 3:00  
 目的： 岩場と紅葉を楽しみながら各会との交流を行う  
 場所： 篠井連峰（宇都宮アルプス） 歩行時間： 3.5H  
 集合場所： 宇都宮冒険活動センター 集合時間： AM 8:00  
 開催主担当： マロニエHC 副担当： 宇都宮HC  
 参加人数： 宇都宮HC.....61名 野木山想会.....21名 上三川HC....12名  
 マロニエHC..25名 悠遊HC.....10名 合計.....129名

開催当日は天候に恵まれ、ご多忙中にも関わらず多数の方に参加していただき大変ありがとうございました。役員一同感謝しております。お陰様で事故もなく、昼食のどん汁も美味しく食し、調理班の皆様には後片付けまでお手伝い下さり厚く御礼申し上げます。演芸等も盛り沢山で各クラブの皆様の御協力に感謝いたします。これより各クラブの感想文をご覧ください。

### ○県連交流会に参加して

宇都宮 HC 安齋博子

宇都宮 HC に入会して2年目の今秋、県連交流会に初参加しました。  
 今回は、宇都宮市篠井の『冒険活動センター』に、野木山想会・マロニエ HC・悠遊 HC・宇都宮 HC の4クラブ（約120余名）が参加。混合編成で6班に分かれ A・B・C の各コースを縦走してきました。滅多に会えない上級者の方や他クラブの方々と肩を並べ、山の話や装備の話などを団欒しながら歩き、楽しいひと時を過ごすことができました。またハイキング楽校の同期生とも会えて、更に嬉しい日でした。

12時にはキャンプサイトに到着し昼食、班のリーダーがコーヒーを入れてくださったり、其々に持ち寄ったお惣菜を分けてみたり、「同じ釜の飯を食う」喜びを今日も味わえて至福の時を過ごせまし

栃木県勤労者山岳連盟 発行責任者：増田俊男 編集責任者：橋田弘一

321-0345 宇都宮市大谷町1109

<http://www.geocities.jp/tochigirosan/>

た。そうして満腹の午後は広場で各クラブの紹介で、歌や踊りなどを交えての発表会が催されました。

その発表を見学していて、歌の選択、踊りひとつを取っても、そのクラブの個性が出ており、しっかり主張していると言うところにとても感心しました。

あるクラブは「楽しく明るく」、別のクラブは「力強く躍動的」、あるクラブは「美味しく楽しくマイペース」だったり、または「優雅」であったりと、どのクラブもとても素晴らしいパフォーマーで、素敵な生き方、仲間作りをしているな～と感じました。

私は山以外での個人の素晴らしい姿を見ることができて、もっと多くの人に見てもらいたいと感じました。例えば、マスメディアを利用したり、HP、ブログなどでも積極的に宣伝し「これから山を歩きたい」「クラブに入りたいがどこが良いか迷っている」等、ハイカー予備軍に広く門戸を開け、交流会を見学あるいは体験入会の場合としても良いのではないかしらと思いました。そこで自分の趣旨に合うクラブに入会してもらえたら、増員のきっかけにもなるのではないかと思ったからです。

最後に全員で踊ったフォークダンス・・・たぶん高校以来だったと思います・・・  
久々に頭を使い全身を使って無我夢中になってしまいました（笑） あのとこのサークルは「山を愛する仲間同士の輪（サークル）」でしたよね?! あのサークルが来年（次回）は、より広く大きく膨らんでいることを望み期待しています。

私も一会員として微力ではありますが、後輩の育成に協力しながら「山を愛し人を愛し自然を愛する仲間、が一人でも多く回りに集まるようにしたいと考えています。

その為にも、他クラブの良いところ、諸先輩方の良い所を見習って自分自身のスキルアップにも努力を惜まず、このような他クラブ員と交流の出来るイベントや講習会にも積極的に参加していこうと考えています。

フォークダンスはもちろん楽しかったのですが、他にも全員が気軽に参加できる「山屋ならではのゲーム」などを取り入れてみても楽しいのではないかしら?と思いつきました。例えば、「借り物リレーでザックパック競争」とか・・・（笑）。負傷者レスキュー競技とか・・・体力と脚力に自信のある者揃いですから、それこそ「経験と知力と体力」で、腕が鳴る足がうずくかもしれません! もちろん「安全第一」に越したことはありませんので却って怪我人が出ては困るのですが（苦笑）

楽しいフォークダンス終了後、県連理事長のお話、自然保護部からのお願い（携帯トイレの購買協力）で、ほぼ全員が携帯トイレを購入。栃木県のお山を綺麗に登ろう運動にまず1歩前進した歴史的瞬間ではなかったでしょうか! 私もここ数年、北海道の山へ登っており、すでに携帯トイレは体験済みです。トムラウシ山では、南沼キャンプ場で環境省の調査隊と合流し、携帯トイレの携帯をテント毎に確認されるという体験もしました。今後は東北方面、富士山でもこういう動きが活発化するらしいので、まだ未体験の方は今から携帯トイレに馴れておくのもベターだろうと思っています。もちろん携帯トイレだけでなく、山屋として必要最低限のマナーは守りたいものですね。

最後になりましたが、運営委員の方々、各クラブ会長、その他部長ならびに各担当の皆様には限られた時間で、企画・計画・実行に至るまで本当にご苦労様でした。130名にも及ぶ集団を取りまとめ楽しませてくださって・・・二度と無いひと時を過ごさせてくださり感謝しています。次回はどのような思考で交流会が開催されるか、どのような芸達者が現れるか、今から楽しみにしておりますので宜しくお願いします（微笑）♪

また、最後の最後になりましたが、仕込み～片付けまで「特製豚汁に全力を注ぎこんでくださった炊出し班の皆様」、この紙面をお借りして改めて、お礼を述べさせていただきます。

「美味しい豚汁をありがとう!ごちそうさまでした～♪（はあと）」

## 県連交流ハイキングに参加して

上三川ハイキングクラブ 井口利雄

昨年が続いて参加しました。年一度の交流ハイキングであり、  
県連各会の交流が計れることで有意義な交流会であったと思います。  
全体の参加者120名で多数の参加がありよかったです。

3県交流集会は、今年は栃木県連が主催になるため県連各会が協力  
して盛上げて行く事が必要と思います。

ハイキングを通じて・健康づく・仲間づくり・自然を大切に、  
今後も県連交流の輪が広がるよう願います。

### ☆県連交流ハイキング～篠井連峰

平成20年10月19日



♪各会の演芸楽しかった～ 全員のフォークダンス盛り上がりました  
来年もまた会いましょう♪

## 県連交流ハイクに参加して

野木山想会 鈴木 マリ子

10月19日(日)、篠井連峰(宇都宮市)に県内の5つの山の会の仲間が集まって県連交流ハイキングが行われた。総勢約130名。野木山想会からは21名が参加した。

朝8:00、冒険センターの中庭に集合。入念なストレッチの後、6班、3コースに別れ宇都宮アルプスと呼ばれるハイキングコースへと出発した。天気予報では曇りだったが、杉の林から見上げる空は日射しが出て明るい。花の季節は終わり、紅葉にはまだ早かったが咲き残りのサラシナショウマが白い花穂をつけているのが見られた。おしゃべりができる程度の樹林のコースをたどる。本山、飯森山、男山、榛名山と名付けられたピークは小さいながら展望が良い。それぞれの山頂付近では他のコースの方々とすれちがい、なつかしく(?)声を掛け合う。

無事下山し、炊事班の方々が豚汁を作って待っていて下さるキャンプサイトに着いたのは12時近くになっていた。それからゆっくり1時までおしゃべりランチタイム。一緒に山を歩き、一緒に美味しい豚汁をいただければ、今日初めて会った人ともすぐにうち解けてしまう。

その後の交流会も楽しいものだった。すり鉢状の野外ステージで各会の紹介の他、歌あり、踊りあり、それぞれに工夫をこらし、練習の成果を披露した。

マロニエHCはフラダンス。上三川HCは「あさはどこから」の踊り。野木山想会はヨサコイソーラン。宇都宮HCはフォークダンス。

観る側もおおいにリラックスして最後のフォークダンスにはほとんどの人がはるか昔の中学生時代を思い出してぎこちなくも楽しく参加した。その後ユーモアあふれる悠遊HCのKさんの挨拶があり、これまたなつかしい「今日の日はさようなら」を肩を組んで歌いお開きとなった。

山好きの仲間と年に一回の集いであるが、これをきっかけにどこかの山でまた顔を合わせられたら楽しいだろうなとほのぼのとした気分で帰路についた。

お骨折りいただいた役員の皆さん、炊事班の皆さん本当に有り難うございました。

## 県連交流ハイク(調理に参加して)

マロニエHC 宮崎イク子

10月19日晴天! きもちいい秋空の中、山行に向かう仲間達を見送り、野木山想会さん\*上三川さん\*悠遊さん\*宇都宮さん\*マロニエ\*各クラブ自己紹介を終え、リヤカーで、荷物を運び(^▽^)さあ~豚汁作りにキャンプ場へ.....材料買出しの青木さん達が、食材を1つ1つ軽量し、しかも食材は全部切っており、鍋の数分袋につめて来てくれたので、私達は、まな板も包丁も使わず(アガト!(^▽`))テキパキと、テーブルに食材の袋を並べ、次はこれね~の声に、和気あいあいと楽しく、次々と鍋に入れ煮込んで.....男性陣は、薪割り!!ととっても力強い味方で、ナタでスパスパひと段落した所で、おいしい手作りケーキ・おせんべい・チョコ・珈琲・おやつ&トークタイム さあ~最後の仕上げ(\*^\_^)皆で味見.....おいし~い!出来上がり!!山行から帰って来る仲間を待つばかり。

今年も、豚汁好評で、皆おいしい!の言葉に、良かった良かった”°☆。・\*・°★o(^▽`\*)♪♪午後のアトラクションも、各クラブの、ダンス\*歌\*秋の爽やかな一日、楽しく過ごしました。役員さんお世話になりました。

## 篠井連峰交流ハイキング

悠遊HC 武田みさ子

10月19日宇都宮最北に位置する、篠井連峰交流ハイキングの日です。Aランク、近距離、とん汁に引き寄せられ毎年参加している。参加者129名、混雑しない様A・B・Cコースに分かれ登山口を別にした。三峰（榛名山、男山、本山）を目指してハイク。好天氣に恵まれ爽快な気分Bコース登山口に向かう。冷氣漂う杉林、湿った地面を坦々と進む。40分過ぎた頃、他コースの人達に出逢う。「オッス」などと声掛け合い、手と手をタッチ。自然下では人類皆仲間と大らかな心にしてくれる。時折りサラシナショウマが咲いていた。白いワイヤーブラシみたいな顔をして、コップでも洗いたくなる様な花だ。目前に榛名山、急登になって

来た。山頂は狭く梵天の紙が風雨に晒され落ちていた。



男山へは15分で到着。篠井の収穫後の疲れた田園風景が眼下に広がる。サーキット場があるのか元気なエンジン音が山に響く。最後は本山、10時35



分到着。霧が薄れた瞬間、日光連山、塩原の山並みを垣間

見る事ができた。県民である由縁か男体山を見るとホットする。本山を堪能し急降下の岩場を下り無事キャンプ場に到着。別名宇都宮アルプス、名の通り急登降ありの変化に富んだ山だ。ヤシオなど花の多



い春に又来たい。他のクラブの人達にも、花や山の名前など教えてもらい良い交流もできた。さあ、楽しみにしていた昼食だ。具沢山のとん汁の美味かった事、皆満足顔、調理グループさんに感謝。

1時頃からは屋外ステージで交流会、替え歌、フラダンス、よさこい、フォークダンスなど盛り沢山、華麗に変身し、技の方もレベルアップしていた。最後に全員でフォークダンス、ラストダンスは難しくなり、教える人、踊る人、皆真剣、四苦八苦しながらも楽しい一時でした。アンチエイジングには最高かも。やみつきになりそう、3時頃余韻を残し終了有意義な一日でした。



## 第6期ハイキング楽校 第7回実技山行～南八ヶ岳～

～地図読み・難場通過実技講習・小屋泊～

日時：2008年10月11～13日（土～月）

今回の山行は、第7期楽校前期総合実技山行です。南八ヶ岳を3日かけてじっくり縦走します。（2泊3日）

### ◆1日目、移動～天狗岳登山（曇り）

コース：石橋⇒岩船⇒太田足利 IC⇒佐久 IC⇒白駒池P・・・高見石小屋・・・中山峠・・・東天狗岳  
・・・根石岳・・・オーレン小屋泊

### ◆2日目、硫黄岳～横岳～赤岳登山（晴）

コース：オーレン小屋・・・夏沢峠・・・硫黄岳・・・横岳・・・赤岳天望荘・・・赤岳（赤岳頂上小屋泊）

### ◆3日目、真教寺尾根を下山（晴）

コース：赤岳頂上小屋・赤岳・・・真教寺尾根・・・牛首山・・・賽の河原・・・大泉清里スキー場P

⇒（入浴）⇒佐久IC⇒太田足利IC⇒岩船⇒石橋

### <1日目>

10月11日朝5時石橋Pを出発、白駒池登山口を目指す。

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください

### <第7回 実技山行～南八ヶ岳～記録・感想文>

野木山想会 大八木光洋

時折、小雨降る早朝、一路南八ヶ岳へ総勢18人で出発、第1日目(10月11日)の始まりです。



白駒池登山口をスタート

午前10時少し前に、白駒池駐車場に到着、ストレッチのあと白駒池登山口を出発した。

気温10度少し寒いくらいである。樹林帯の中大きな玉石交じりの登山道は濡れた玉石は滑り易く非常に神経を使う。程なくして白駒池に到着、白駒山荘にて一息入れる。

ここからは本格的な登りとなり、高見石小屋にて軽い行動食を摂る。樹林帯の中をひたすら歩くと、ようやく尾根に出て中山山頂に到着、展望はなし。中山峠に向かって少し下るとやっと展望が開け、緑の中に黄色の帯がまだら模様を描かれている絵の様だ。こちらの紅葉は赤い色が少ないようだ。

1時10分に中山峠に到着、ここからは天狗岳への登りである。ガスが出てきた、風が強く

なり冷たくなってきた。岩場の急登が多くなり寒さと疲労でだいぶ参ってきた。そんな中、仲間の女性の脚にアクシデントが発生した。大貫CLが懸命にマッサージ、テーピングを行っている。皆、心配そうに見守る。大貫CLと八木沢SLから、このままでは全体が大幅に遅れるので、パーティを大貫グループ（4人）と八木沢グループ（14名）に分けて、八木沢グループは先行するとの指示があった。我々八木沢班は心配ながらも、先に出発した。

3時20分に根石岳到着、再び樹林帯に入り風は気にならなくなった。一路、オーレン小屋を目指し最後の踏ん張りひたすら歩く、さすがに足どりが重い疲れた

4時10分 やっとオーレン小屋にたどり着いた。疲れました、ご苦労さん。約20分遅れで、アクシデントで遅れていた後続4人のグループが無事到着。思わず拍手、女性も元気そう、良かった、ヨカッタ。



中山山頂にて

オーレン小屋のお風呂は冷えた体に最高のプレゼントでした。皆さすがに疲れたと見え、脚のマッサージに余念が無い、パスタノーゲンの臭いで部屋の中がむせてしまう程でした。待望の夕食、今日はバイキング形式の特別料理です。ビールで乾杯食事馬刺し、カモ肉、すき焼き、煮物きのこなど結構豪華な食事でした。きのこ汁も美味しかったな～。皆様お疲れでした。明日が本番、期待と不安を胸に眠りに付いた。深夜にカモシカの鳴き声が哀しそうに3度ほど聞こえた。改めてお休み

## <2日目>

10月12日朝7時オーレン小屋を出発、赤岳を目指す。

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください

### <第7回 実技山行（南八ヶ岳2日目夏沢峠～赤岳）記録・感想文>

野木山想会 鈴木マリ子

初日の朝が早かったせいか、昨夜はよく眠れた。天気もよさそうだ！ かもしかのクロちゃん（オーレン小屋付近によく現れるとのこと）には遭えなかったけど、暖かいオーレン小屋を後に針葉樹の落ち葉を踏んでゆるやかな登りをヤマネやモモンガのいる夏沢峠に向かう。

近頃では屋根にソーラーパネルを載せた小屋も珍しくなく、風力発電用のプロペラが何基も立っているのをみかける。文明の恩恵も捨てきれず、大自然の懐にも入り込みたい人間共を森の動物たちはどう思っているのだろうか？

さて、その欲張りな私達は絶好の天気の下、いよいよ南八ヶ岳の稜線を進んでいく。樹林の中なのでこわさはないが、東側は大きくえぐられた崖である。樹林がきれると、広々とした硫黄岳山頂が現れた。南アルプスは間近に見え、遠くに槍の穂先、7月に行った御岳、木曾駒、宝剣岳も見える。360°の展望をゆっくりと楽しんだ。

そこから少し下がった硫黄岳山荘でトイレタイム（このトイレもとてもきれい）この付近は夏にはコマクサが咲きお花畑が広がる場所であるが、今眼下に映るのは針葉樹の緑に混ざる黄色と赤の紅葉である。

横岳の手前でストックをしまい、本格的な岩場歩きに入る。ゴツゴツとした岩稜が続き、西側には大同心、小同心と呼ばれる岩峰が見える。狭く急な岩場を慎重に進む。好天の助けもあり、要所、要所で休憩を入れながら、小さなお地蔵様のあるところに来ると、目指す赤岳がどん！とそびえ立つ。阿弥陀岳、権現岳を従えて盟主赤岳はひとときわ大きい。



赤岳山頂にて

気を取り直して最後の急登に挑む。岩礫を踏みしめ鎖場をいくつか越えると頂上小屋である。ザックを置いて、空身で祠のある山頂に向かう。さえぎるものは何もない。見えるものは空と雲と山。

いったん、小屋に入り休憩の後、夕日を見に再び山頂に。すぐに戻るつもりで上着を着ずにいたら寒くて居られず防寒着を着て出直す。雲の間に夕日が沈み終わりか

なと思ったが沈んだ夕日の周りの雲が紅く染まり始め、刻々と表情を変えて行く。夕日の幅の茜色の柱が空に延

びて行き、言い尽くせぬ美しさである。傍のYさん、Nさんとてを取り合って歓声を上げてしまった。厳しい条件の山頂であるが、ここに来られたからこそ目にすることが出来た光景であった。

### <3日目>

10月13日朝7時前に赤岳頂上小屋を出発、真教寺尾根から下山する。

以下、ハイキング楽校生の感想文を読んでください

<第7回 実技山行（3日目～真教寺尾根）記録・感想文> 宇都宮ハイキングクラブ  
安齋博子

午前4時過ぎ、超満員の小屋で暑苦しい一夜を過ごした私たちは寝不足と頭痛、軽い疲労を抱えて起床。中には風邪気味のメンバーも居たが、その後、食欲も少しずつ戻り回復に向かってきた様子に安心する。

ひとまず新鮮な空気を吸いに小屋を出ると、まだ真っ暗な眼下に灯る街の明かりと、ヘッドランプを点した登山者が天望荘方面から登ってくるのが見えた。

吐く息は白く、秋涼の風に吹かれ、友の煎れてくれた暖かいコーヒーで喉を潤す。赤岳山頂の祠に向かい「今日も全員が元気で無事に下山できますようにお守りください」と両手を合わせた。・・・徐々に東の空が朱色に輝きだし、とうとう5時40分に待望の御来光を望む。廻りの観客たちが一斉に歓声を上げ今日の好天を確認しあった。

朝食と身支度を済ませ、小屋前に集合。全員の顔が朝日に照らされて美しい。偶然に『影赤岳』も見る事が出来た（感無量！）。朝のストレッチングを入念に行い。昨日に続き素晴

らしい秋晴れのもとよいよ下山開始となる。見渡せば夏に登った御嶽山、その隣には乗鞍～キレット、槍、常念・・・鹿島槍、後立山、そして南アルプスと 360 度の展望。これ以上は無いという絶好のコンディションで登山が出来るのは数少ない。早々に心が躍る。 赤岳山頂から眺め 夜明けの富士山

赤岳頂上小屋前にて記念撮影

名残惜しい気持ちを堪え、これからいきなりの難場が待っているという大貫CLの説明に緊張感で胸が震える。 班編成を変更し、八木沢SLも前方の班に入ってしまったので、私が最後尾になってしまった。大丈夫かなと不安が募るが、頼むよ！との皆の掛け声に意を決しシンガリを勤める覚悟を決めた。

山頂直下の岩場をトラバースしたり、急なガレ場をゆっくりと慎重に下る。油断すると足を滑らせて滑落する危険があることや、浮石を引掛けて落石の原因になるなどの注意を受け、一歩ずつ確実に足を運ぶ。全員の緊張感がヒシヒシと伝わってくる。



真教寺尾根の難場を下る

大貫CLが慎重に鎖や岩場を確かめて、私たちに的確な指示をくださる。その指示を受け、誰もが、先生の動きをじっとみつめ、見様見真似してゆっくりと足場を確かめながら降下していく。先に降りた者は後続者が無事に降下するのを確認し、間が離れないようにして進む。時折休憩を入れながら鎖と岩場の連続を約 2 時間（標高にして約 600 m弱）も続けたが、全員が怪我も無く無事に通過。

乾いた汗をぬぐい一息入れて進むと紅葉の始まった樹林帯の尾根歩きとなり、開けた尾根で振り返ると、ついさっき下山してきた削られた岩肌が見え、赤岳山頂と頂上小屋も遠くに見えた。

赤岳の険しい山容を仰いで、誰とも無く、すごいところを降りてきたんだね～と云い合い、原生林の中でマイナスイオンを一杯吸収したせいなのか、今までの緊張感から解放され、やればできるもんだな～と余裕のコメント（笑）。

涼しい扇山で休憩を取り、牛首山で赤岳をバックに最後の記念撮影を済ませた。 気が抜けるとなんでもない所で転んだり滑ったりするので、ゆるい尾根歩きでもしっかり注意して歩くよう、指導を受けたり写真を撮ったりしながら南八ヶ岳縦走最後の快適な稜線歩き堪能した。

賽の河原ではマツムシソウが満開で目を楽しませてくれ、スキー場の展望台に立つとアルプスの山々の展望にまたまた感動・・・♪ 我々は、スキー場をショートカットし駐車場へ・・・。先生やメンバーと完登成功の握手。「ありがとうございます！」「お疲れ様！」「良かったね！」そして入念にストレッチングをして、帰路につく。



牛首山にて記念撮影

途中、先輩が交渉してくださった温泉ホテルにて、貸切状態のお風呂に入浴、2日間の汗を流して、美男美女(?)に戻った。また、ドライブインで遅い昼食を摂った。「ラーメン食べた〜い」「俺は蕎麦!」「私は天ざるがいいな〜」「俺はビール!」「おいしい牛乳が飲みたい」と、それぞれが下山途中で交わした会話であるが、食事も節制される登山では下山するとどんなものでも「御馳走」なのである(笑)。

帰路のバス内では其々にこの3日間の縦走と小屋泊体験の思いでの余韻に浸りながら、車窓から見える十三夜の丸い月を眺めながら帰宅の途についた。

今回の実技山行は、開校以来初めての小屋2泊という山行だったとのこと。小屋によっての違いが体験できたことや今まで学習してきた前期の総合的な体験ができて、内容の充実した素晴らしい山行だったと思う。また、全員が完登できたことは、それぞれが今後の山行に、今までより少しだけ自信を持つことが出来たように思う。

登山技術以外の面でも多くの事に気づかせられた。一人では出来ない事もチームなら可能なこと、CL、SLの立場としての行動、そのメンバーとして出来ることなど、折に触れ気づき、反省し、盛りだくさんの「いろは」を覚えた。「実りの秋に実りある課外授業」を体験できて本当に良かった・・・。

そして同行したメンバーの全員にも感謝して、これからもみんなとのチームワークをより良い方向へ進むことを切望し、また習ったことをひとつでも多く身に着けて、後期へ繋げていきたいと思う。大貫CL、八木沢SL、吉岡ASありがとうございました♪